

頑固一徹の

# 天気晴朗 なれど 波高し

西田 雅昭  
NISHIDA, Masaaki



Illustration : Toshiyuki Ido

Visual Basic .NET 奮戦記

新連載

## VB.NETとの出会い

level				
1	2	3	4	5

Technology Tools
<input checked="" type="checkbox"/> Visual Basic
<input type="checkbox"/> Visual C#
<input type="checkbox"/> Visual C++
<input type="checkbox"/> SQL Server
<input type="checkbox"/> Oracle
<input type="checkbox"/> Access 2002
<input type="checkbox"/> ASP.NET
<input type="checkbox"/> Other:

Samples

我輩の名前は「頑固一徹」。かれこれ10年以上Visual Basicを使ってカスタムプログラムを書いてきた。忙しくて、新しいバージョンの勉強をするヒマなんか無い。プログラミングの本や雑誌を読むのは、電車の中か、ベッドで寝る前くらい。まわりが何を言っても、私のやり方を変える気はない。

dotNET マガジンで連載していた「Visual Basic .NETのツボ」という記事をときどき読んでいたが、あれはいかん、これはいかん、とうるさく書いてあるのを見て、絶対に「.NET」というやつには触るまい、とつねづね思っていた。ところが最近、上司から「Visual Basic .NETを使えるようにしろ」と言われ、泣く泣く触ってみるようになった。以下は、我輩の奮闘記である。



### インストールは簡単だ!

説明書など読む気はないので、まずDisk1を走らせてみる。何か言ってきたらなんでも、はいはいと言うことにしている。驚いたことに、たいしたこともしないうちに、別のディスクを要求してきた。

いろいろ聞いてくるが、我輩のHDは大きいので、すべて入れてしまうことにする。

腹立たしいことに、先ほどのDisk1に入れ変えろと言われた。なんでこんな面倒なことをしなければならぬんだ。しかし、ここはグッと我慢して、先へ

進む。入れられるものはすべて入れることにして、インストールが終わった。

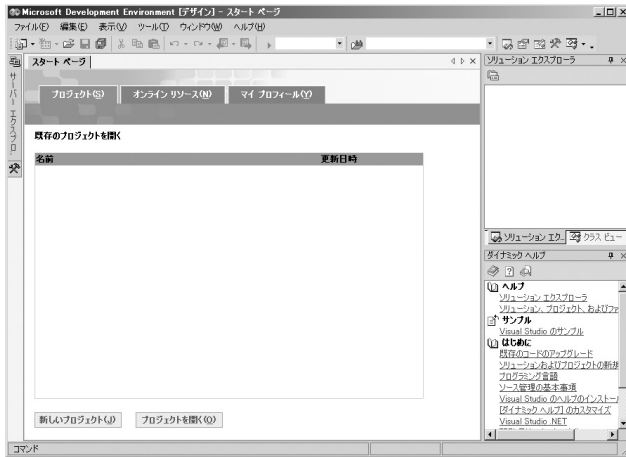
友人の話では、ひどく時間がかかる、ということだったが、我輩のマシンのクロックは3GHz、メモリも512MBあるので、思ったほど時間はかからなかった。



### VB.NETを使ってみる

さっそく起動してみよう。最初にMSの広告のようなカラフルな画面が出るが、すぐ消えて、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の環境が現われた (図1)。以前のVisual Basicなら「新しいプロジェクト」(図2)になるのだが、今度は「ス

図1：VB.NETの初期画面



スタートページ」である。早くも頭に来た。下のほうに「新しいプロジェクト」というボタンがあるので、かまわずこれをクリックする。すると、「新しいプロジェクト」ダイアログボックス (図3) が開いた。

#### 注意

我輩は、Visual Studio .NET 2003を使っている。「2002」とは、画面が違う場合もあるので、ご注意ください。

### まずは環境を自分用に

ここまで進むと、後ろから東山君の声がした。

「先輩、VB.NETを使うのなら、最初にちょっとした設定をしておくで楽ですよ」

東山君は、最近入社した後輩で、VB.NETの経験がある。我輩の言うことをよく聞き、仕事もできるので、この男の言うことには、「頑固」な我輩としても、いちおう耳を傾けることにしている。

彼の話によると、我輩のようなVisual Basic一筋の人間がVB.NETに手を出すときには、コツが2つあるそうだ。

ひとまず [キャンセル] ボタンで、「新

しいプロジェクト」ダイアログボックスを閉じておこう。

ひとつ目は、図1の「スタートページ」で「マイプロフィール」タブを選択し、一番上のコンボボックスで“Visual Basic 開発者”を選択すること。これを選択すると、「キーボードスキーム」「ウィンドウレイアウト」が、自動的に“Visual Basic 6”になり、開発環境の見た目や、ファンクションキー、ショートカットキーの使い方が、Visual Basic 6.0と同じになる。さらに、ヘルプフィルタから“Visual Basicドキュメント”も選択しておくとしよう (図4)。

2つ目は、作成するプログラムの保存位置の指定である。メニューから、

[ツール] - [オプション]

と選択すると開く「オプション」ダイアログボックスで、左側の「ナビゲーション」ペインから、

「環境」→「プロジェクトおよびソリューション」

と選択する。すると、図5のように「Visual Studioプロジェクトの場所」テ

図2：Visual Basic 6.0の「新しいプロジェクト」

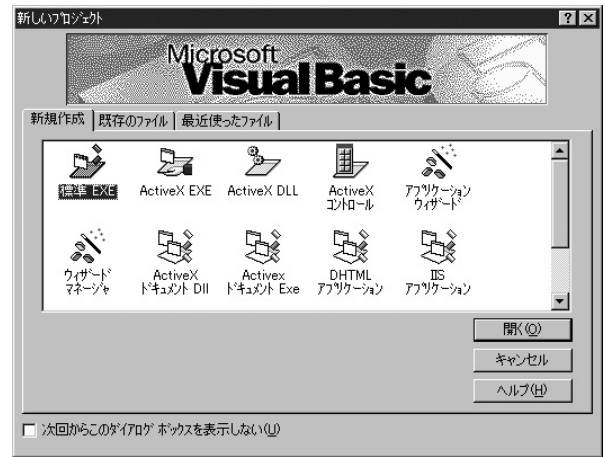


図3：VB.NETの「新しいプロジェクト」



図4：「Visual Basic 開発者」選択後の画面



キストボックスに、長々とフォルダが書いてある。しばらくの間は練習だから、「d:\VB7Exercise」というフォルダにまとめておこう。

[参照] ボタンをクリックして「プロジェクトの場所」ダイアログボックスを開き、「d:\VB7Exercise」というフォルダを作成して、[開く] ボタンをクリックする。これで、「Visual Studioプロジェクトの場所」テキストボックス